# 中国四国農政局土木工事検査技術基準

令和６年６月

中国四国農政局

# 中国四国農政局土木工事検査技術基準

目　　次


中国四国農政局土木工事検査技術基準 …… 1
別表第１ …… 2
別表第２　出来形検査基準 …… 3
１　共通工事 …… 3
２　ほ場整備工事 …… 9
３　農用地造成工事 …… 9
４　舗装工事・道路改良工事 …… 11
５　水路トンネル工事 …… 13
６　水路工事 …… 15
７　排水路工事・河川工事 …… 17
８　管水路工事 …… 17
９　畑かん施設工事 …… 21
１０　橋梁工事 …… 21
１１　橋梁下部工事 …… 21
１２　法面保護工事 …… 23
１３　暗渠排水工事 …… 25
１４　フィルダム工事 …… 25
１５　頭首工工事 …… 27
１６　海岸河川工事 …… 27
１７　ため池改修工事 …… 29
別表　ア、イ、ウ …… 31

# 中国四国農政局土木工事検査技術基準

第１　目　　的

この基準は、中国四国農政局請負契約等検査要領第 12 条の規定に基づいて、土木工事の検査に必要な技術的事項を定め、もって、検査の適切な実施を図ることを目的とする。

第２　適　　用

この基準は、中国四国農政局の所掌する国営土地改良事業等における請負工事に係る既済部分検査、完成検査及び中間技術検査に適用する。

第３　検査の内容

検査は、当該工事の出来高を対象として、関係書類に基づき、工事の実施状況、出来形及び品質について、合否の判定を行うものとする。

１ 工事の実施状況の検査は、出来形管理、品質管理その他の実施状況に関する各種の記録（写真による記録を含む）と、契約書、仕様書、図面、その他の関係書類を対比し、別表第１により行うものとする。

２工事の出来形及び品質の検査は、原則として実測、場合により施工管理記録によるものとし、位 置、出来形寸法、品質及び出来栄えについて、契約図書と対比して別表第２により行うものとする。

３工事の出来高数量は、工事出来形及び品質の検査の結果に基づき、出来形図及び出来形数量計算 書により確認するものとする。

第４　検査の判定基準

検査の合格又は不合格の判定の基準及び不合格の場合における処置は次の各号によるものとする。

１　合　格

(1) 測定値が全て別表第 1 及び第２に定める規格値を満足する場合。

(2) 測定値の一部が規格値の上限値を越えているが、構造及び機能に支障ないと判断される場合。

２　不合格

測定値が前項各号に該当しない場合。

３　不合格の場合の処理

前項に該当する場合は、契約担当官等に報告するものとする。

別表第１

| 項　　目 | 関　係　書　類 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 工事の管理状況 | 契約書、仕様書、設計図、工事打合簿、施工管理記録、その他 | 協議事項の処理内容、管理手順、施工管理記録の整理状況、測定値と規格値との関係、管理結果の工事への反映状況 |
| 貸与品及び支給品 | 支給、受領、使用、精算、返納等の関係書類 | 支給、受領、使用、保管、精算及び返納の処理状況 |
| 貸与設備及び貸与機械 | 貸与規程 | 使用、受領、使用状況、保管、整備及び返納の処理状況 |
| 工事材料<br>解体材及び発生材 | 仕様書、材料検査簿、解体及び発生材調書 | 工事材料の検査状況<br>解体及び発生材料の処理状況 |
| 施工体制 | 施工計画書、施工体制台帳 | 適正な施工体制の確保状況 |

別表第２　出来形検査基準

| 工　　種 | | 検　査　内　容 | 規　　格　　値<br>(mm) |
|---|---|---|---|
| １<br>共<br>通<br>工<br>事 | 1.掘削 | 基準高 | ㊉ 100 |
| | | 幅 | ㊀ 150 |
| | | 法長 | 法長５ｍ未満　㊀ 200<br>〃　５ｍ以上　㊀ ４％ |
| | | 施工延長 | ㊀ 200 |
| | 2.盛土 | 基準高 | ㊉ 100 |
| | | 幅 | ㊀ 150 |
| | | 法長 | 法長５ｍ未満　㊀ 100<br>〃　５ｍ以上　㊀ ２％ |
| | | 施工延長 | ㊀ 200 |
| | 3.石積み<br>コンクリートブロック積み<br>石張工<br>コンクリートブロック張り<br>(河川護岸は除く) | 基準高 | ㊉ 65　㊀ 40 |
| | | 厚さ | 石面より裏込コンクリート背面まで　㊀ 50<br>石面より裏込材料背面まで　㊀ 100 |
| | | 法長 | 法長２ｍ未満　㊀ 40<br>〃　２ｍ以上　㊀ 75 |
| | | 施工延長 | ㊀ 0.1％<br>ただし、延長 10m未満　㊀ 50<br>10m以上 50m未満　㊀ 100<br>50m以上 200m未満　㊀ 200 |
| | 4.基礎杭打工 | 基準高 | 木杭、プレキャストコンクリート杭<br>鋼管杭の場合　㊉ 75　㊀ 45<br>場所打杭、深礎杭の場合　㊉ 45 |
| | | 偏心 | １）木杭　225<br>２）プレキャストコンクリート杭及び鋼管杭　D/4 かつ 100 以内<br>３）場所打杭　100<br>４）深礎杭　150 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 基準高、幅、法長については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。箇所単位のものは適宜測定する。 | |
| 同　上 | |
| 基準高、厚さ、法長については施工延長 200～300ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 200m未満は２箇所測定する。箇所単位のものは適宜測定する。 | |
| 基準高、偏心については施工本数 200～300 本につき１本以上測定する。<br>ただし、施工本数 200 本未満は２本測定する。 | Ｄ＝杭径 |

| 工　　種 | | 検　査　内　容 | 規　　格　　値<br>(mm) |
|---|---|---|---|
| 1<br>共<br>通<br>工<br>事 | 5. 矢板打工<br>(矢板護岸を含む) | 基準高 | ㊉ 45 |
| | | 中心線のズレ | ㊉ 100 |
| | | 施工延長 | ㊀0.1%<br>ただし、延長 200m未満　㊀ 200 |
| | 6. オープンケーソン | 基準高 | ㊉ 100 |
| | | 幅 | ㊀ 50 |
| | | 厚さ | ㊀ 20 |
| | | 高さ | ㊀ 100 |
| | | 長さ | ㊀ 50 |
| | | 偏位 | 300 |
| | 7. 栗石基礎<br>砕石基礎<br>砂基礎<br>均しコンクリート | 幅 | 栗石基礎、砕石基礎　㊀ 200<br>砂基礎、均しコンクリート　㊀ 100 |
| | | 厚さ | 栗石基礎、砕石基礎、砂基礎　㊀ 50<br>均しコンクリート　㊀ 20 |
| | | 施工延長 | ㊀0.2%<br>ただし、延長 50m未満　㊀ 100 |
| | 8. コンクリート付帯構造物<br>コンクリート基礎<br>〃　側溝<br>〃　管渠<br>横断構造物<br>コンクリート擁壁<br>その他上記に準ずるもの | 基準高 | ㊉ 45 |
| | | 幅 | ㊀ 30 |
| | | 厚さ | 部材厚 30 cm未満　㊀ 20<br>〃　30 cm以上　㊀ 25 |
| | | 高さ | ２m未満　㊀ 30<br>２m以上　㊀ 45 |
| | | 施工延長（又は長さ） | ㊀0.1%<br>ただし、延長　２m未満　㊀ 30<br>10m 〃　㊀ 50<br>50m 〃　㊀ 100<br>200m 〃　㊀ 200 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 基準高、中心線のズレについては施工延長 200～300ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 200m未満は２箇所測定する。 | |
| 基準高、幅、厚さ、高さ、長さについては構造図の寸法標示箇所を適宜測定する。 | |
| 幅、厚さについては施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。 | 管水路の基礎は「8 管水路工事の 1 管体基礎工（砂基礎等）」による。 |
| 基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長 200～300ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 200m未満は２箇所測定する。箇<br>所単位のものは適宜測定する。 | |

| 工種 | | 検査内容 | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|
| 1 共通工事 | 9.精度を要するもの<br>分水工計量部 ゲート戸当部 橋台沓部 | 基準高 | ㊨ 20 |
| | | 幅 | ㊨ 10 |
| | | 厚さ | ㊨ 20 |
| | | 高さ | ㊨ 10 |
| | | 長さ | ㊨ 10 |
| | 10.U字溝<br>U字フリューム<br>ベンチフリューム | 基準高 | ㊨ 40 |
| | | 中心線のズレ | ㊨ 50 |
| | | 施工延長<br>ただし、延長 200m未満 | ㊦ 0.1%<br>㊦ 200 |
| | 11.土水路 | 基準高 | ㊨ 100 |
| | | 幅 | ㊦ 75 |
| | | 高さ | ㊦ 75 |
| | | 施工延長<br>ただし、延長 200m未満 | ㊦ 0.2%<br>㊦ 400 |
| | 12.鉄筋組立 | かぶり | ㊨φかつ最小かぶり以上<br>φ：鉄筋径 |
| | | 中心間隔 | ㊨φ<br>φ：鉄筋径 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 構造図の寸法表示箇所を適宜測定する。 | |
| 基準高、中心線のズレについては施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。 | |
| 基準高、幅、高さについては施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。 | |
| かぶり、中心間隔について、おおむね５スパン（５打設ブロック）に１箇所以上測定する。<br>ただし、上記未満は２箇所測定する。 | １面当たり４箇所程度測定する。<br>同一鉄筋上での測定は行わない。<br><br>１面当たり鉄筋 10 本程度の間隔を測定する。測定箇所は、スパン毎に同じ位置とならないように測定する。 |

| 工種 | | 検査内容 | 規格値 (㎜) |
|---|---|---|---|
| 2 ほ場整備工事 | 1.表土扱い | 厚さ | ㊀20% |
| | 2.基盤造成 表土整地 | 基準高 | 指定したとき ㊉ 150 |
| | | 均平度 | ㊉ 50 |
| | 3.畦畔復旧 | 幅 | ㊀ 50 |
| | | 高さ | ㊀ 50 |
| | 4.道路工 (砂利道) | 幅 | ㊀ 150 |
| | | 厚さ | ㊀ 45 |
| | | 施工延長 | ㊀0.2% ただし、延長 200m未満 ㊀ 400 |
| 3 農用地造成工事 | 1.耕起深耕 | 耕起深 | 果樹 ㊀ 75 野菜 ㊀ 15 |
| | 2.テラス (階段畑) | 幅 | 指定したとき ㊀ 150 |
| | | 耕起幅 | 指定したとき ㊀ 150 |
| | | 側溝幅 | ㊀ 75 |
| | | 側溝高さ | 指定したとき ㊀ 75 |
| | | 法勾配 | － |
| | 3.道路工 (耕作道) | 幅 | ㊀ 150 |
| | | 厚さ | ㊀ 45 |
| | | 側溝幅 | ㊀ 75 |
| | | 側溝高さ | 指定したとき ㊀ 75 |
| | 4.土壌改良 | ｐＨ測定 | 指定したとき ㊉ 0.5 |
| | 5.改良山成 | 基準高 | 指定したとき ㊉ 300 |
| | | 法勾配 | － |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 厚さについては１ha 当たりおおむね３点測定する。 | |
| 基準高、均平度については１ha 当たりおおむね３点測定する。 | |
| 幅、高さについては施工延長おおむね 2,000ｍにつき１箇所以上測定する。 | |
| 幅、厚さについては幹線道路施工延長 500ｍにつき１箇所以上測定する。<br>支線道路は施工延長おおむね 2,000ｍにつき１箇所以上測定する。 | |
| 耕起深についてはおおむね１ha 当たり１箇所の割合で測定する。 | |
| 幅、耕起幅、側溝幅、側溝高さ、法勾配についてはテラス延長おおむね 1,000ｍにつき１箇所以上測定する。 | |
| 幅、厚さ、側溝幅、側溝高さについては施工延長おおむね 1,000ｍにつき１箇所以上測定する。 | |
| ｐＨ測定についてはおおむね 10ha 当たり１箇所の割合で測定する。 | |
| 基準高についてはおおむね 1ha 当たり１箇所の割合で測定する。法勾配については施工面積おおむね 1,000 ㎡当たり１箇所の割合で測定する。 | 切土部のみ対象とする。 |

| 工種 | | 検査内容 | | 規格値 (㎜) |
|---|---|---|---|---|
| 4 舗装工事・道路改良工事 | 1.路盤工 | 基準高 | | 下層 ㊥ 50 |
| | | 幅 | | ㊦ 50 |
| | | 厚さ | | 下層 ㊦ 50<br>上層 ㊦ 30 |
| | | 中心線のズレ | | ㊥ 100 |
| | | 施工延長 | | ㊦0.2%<br>ただし、延長 150m未満 ㊦ 100 |
| | 2.コンクリート舗装工<br>アスファルト舗装工 | 幅 | | ㊦ 30 |
| | | 厚さ | | コンクリート舗装 ㊦ 10<br>アスファルト舗装各層 ㊦ 10<br>〃 全層 ㊦ 15 |
| | | 中心線のズレ | | ㊥ 50 |
| | | 施工延長 | | ㊦0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊦ 150 |
| | | 平坦性 | | As 舗装<br>3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀ標準偏差 δ＝2.40㎜以内<br>直読式の標準偏差 δ＝1.75 ㎜以内<br>Co 舗装標準偏差 δ＝2.00 ㎜以内 |
| | 3.砂利舗装工 | 幅 | | ㊦ 100 |
| | | 厚さ | | ㊦ 45 |
| | | 施工延長 | | ㊦0.2%<br>ただし、延長 50m未満 ㊦ 100 |
| | 4.道路トンネル | 支保工 | 幅 | ㊦ 70 |
| | | | 間隔 | ㊥ 75 |
| | | コンクリート覆工 | 基準高 | ㊥ 50 |
| | | | 幅 | ㊦ 70 |
| | | | 巻厚 | ㊦ 50 |
| | | | 高さ | ㊦ 70 |
| | | | 中心線のズレ | 直線部 ㊥ 100<br>曲線部 ㊥ 150 |
| | | | 施工延長 | ㊦0.1%㊦ 150<br>ただし、延長 150m未満 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
|---|---|
| 基準高、幅、厚さ、中心線のズレについては施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。 | |
| 幅、中心線のズレ、平坦性（直読式による場合）については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。<br>厚さについては施工面積おおむね 1,000 ㎡につき１箇所の割合で測定する。<br>ただし、施工面積 1,000 ㎡未満は２箇所測定する。 | 注：平坦性について直読式の場合は実測による。<br>プロフィルメータの場合は施工管理記録による。 |
| 幅、厚さについては施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。 | |
| 幅、間隔については適宜測定する。 | |
| 基準高、幅、高さについては施工延長 100～200ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。巻<br>厚、中心線のズレについては適宜測定する。 | |

| 工種 | | 検査内容 | | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|---|
| 4 舗装工事・道路改良工事 | 5.道路トンネル（ＮＡＴＭ） | 支保工 | 幅 | ㊀ 70 |
| | | | 間隔 | ㊉ 75 |
| | | 吹付コンクリート厚 | | 施工吹付厚≧設計吹付厚<br>ただし、良質な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付厚の１／３以上を確保するものとする。 |
| | | コンクリート覆工 | 基準高 | ㊉ 50 |
| | | | 幅 | ㊀ 50 |
| | | | 巻厚 | ㊀ 0 |
| | | | 高さ | ㊀ 50 |
| | | | 中心線のズレ | 直線部 ㊉ 100<br>曲線部 ㊉ 150 |
| | | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊀ 150 |
| 5 水路トンネル工事 | 1.水 路トンネル | 支保工 | 幅 | Ｂタイプ ㊀ 0<br>Ｃ，Ｄタイプ ㊀ 40 |
| | | | 間隔 | ㊉ 75 |
| | | コンクリート覆工 | 基準高 | ㊉ 50 |
| | | | 幅 | ㊀ 40 |
| | | | 巻厚 | ㊀ 0 |
| | | | 高さ | ㊀ 40 |
| | | | 中心線のズレ | 直線部 ㊉ 100<br>曲線部 ㊉ 150 |
| | | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊀ 150 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 幅、間隔については適宜測定する。 | |
| 基準高、幅、高さについては施工延長 100～200ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。巻<br>厚、中心線のズレについては適宜測定する。 | |
| 幅、間隔については適宜測定する。 | |
| 基準高、幅、高さについては施工延長 100～200ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。<br>巻厚、中心線のズレについては適宜測定する。 | |

| 工種 | | 検査内容 | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|
| 6 水路工事 | 1.現場打開水路 | 基準高 | ㊉ 30 |
| | | 幅 | ㊀ 25 |
| | | 厚さ | ㊀ 20 |
| | | 高さ | ㊀ 25 |
| | | 中心線のズレ | 直線部 ㊉ 50<br>曲線部 ㊉ 100 |
| | | スパン長 | 直線部 ㊉ 20<br>曲線部 ㊉ 30 |
| | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 150m 未満 ㊀ 150 |
| | 2.現場打サイホン | 基準高 | ㊉ 50 |
| | | 幅 | ㊀ 20 |
| | | 厚さ | ㊀ 20 |
| | | 高さ | ㊀ 20 |
| | | 中心線のズレ | 直線部 ㊉ 50<br>曲線部 ㊉ 100 |
| | | スパン長 | 直線部 ㊉ 20<br>曲線部 ㊉ 30 |
| | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊀ 150 |
| | 3.現場打暗渠 | 基準高 | ㊉ 30 |
| | | 幅 | ㊀ 20 |
| | | 厚さ | ㊀ 20 |
| | | 高さ | ㊀ 20 |
| | | 中心線のズレ | 直線部 ㊉ 50<br>曲線部 ㊉ 100 |
| | | スパン長 | 直線部 ㊉ 20<br>曲線部 ㊉ 30 |
| | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊀ 150 |
| | 4.鉄筋コンクリート大型フリューム 鉄筋コンクリートL形水路 | 基準高 | ㊊ 30 |
| | | 幅 | ㊁ 25 |
| | | 厚さ | ㊁ 20 |
| | | 中心線のズレ | 直接部 ㊊ 50<br>曲線部 ㊊ 100 |
| | | 施工延長 | ㊁ 0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊁ 150 |
| | 5.ボックスカルバート水路 | 基準高 | ㊊ 30 |
| | | 中心線のズレ | 直接部 ㊊ 50<br>曲線部 ㊊ 100 |
| | | 施工延長 | ㊁ 0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊁ 150 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 基準高、幅、厚さ、高さについては施工延長 100～200ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。中心線のズレについては適宜測定する。 | スパンの標準９ｍとした場合。 |
| 同　上 | |
| 同　上 | |
| 基準高、幅、厚さについては施工延長 100～200ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。中心線のズレについては適宜測定する。 | 幅、厚さは鉄筋コンクリートＬ形水路のみ測定する。 |
| 基準高については施工延長 100～200ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。中心線のズレについては適宜測定する。 | |

| 工種 | | 検査内容 | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|
| 7 排水路工事・河川工事 | 1. コンクリート法覆工<br>アスファルト法覆工 | 基準高 | ㊉ 45 |
| | | 厚さ | 厚さ 10 ㎝未満 ㊀ 20<br>〃 10 ㎝以上 ㊀ 30 |
| | | 法長 | 法長２ｍ未満 ㊀ 50<br>〃 ２ｍ以上 ㊀ 100 |
| | | 施工延長 | ㊀0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊀ 150 |
| | 2. コンクリートブロック積み水路<br>鉄筋コンクリート柵渠 | 基準高 | ㊉ 50 |
| | | 幅 | ㊀ 40 |
| | | 高さ | ㊀ 40 |
| | | 中心線のズレ | 直接部 ㊉ 50<br>曲線部 ㊉ 100 |
| | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊀ 150 |
| | 3. ライニング水路<br>連節ブロック<br>コンクリートマット | 基準高 | ㊉ 75 |
| | | 幅 | ㊀ 75 |
| | | 法長 | 法長２ｍ未満 ㊀ 50<br>〃 ２ｍ以上 ㊀ 100 |
| | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 150m未満 ㊀ 150 |
| 8 管水路工事 | 1. 管体基礎工<br>(砂 基 礎 等) | 幅 | ㊀ 100 |
| | | 高さ | ㊉ 30 |
| | 2. 管水路<br>( 遠心力鉄筋コンクリート管)<br>ＲＣ管 | 基準高 | ㊉ 30<br>被圧地下水のある場合 ㊉ 50 |
| | | 中心線のズレ | ㊉ 100 |
| | | ジョイント間隔 | 別表ア参照 |
| | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 200m未満 ㊀ 200 |
| | 3. 管水路<br>( ダクタイル鋳鉄管、強化プラスチック複合管) | 基準高 | ㊉ 30<br>被圧地下水のある場合 ㊉ 50 |
| | | 中心線のズレ | ㊉ 100 |
| | | ジョイント間隔 | 別表イ及び別表ウ参照 |
| | | 施工延長 | ㊀ 0.1%<br>ただし、延長 200m未満 ㊀ 200 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
|---|---|
| 基準高、厚さ、法長については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。 | |
| 基準高、幅、高さについては施工延長 100～200ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。中心線のズレについては適宜測定する。 | 幅、高さは、柵渠には適用しない。 |
| 基準高、幅、法長については施工延長 100～200ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。 | 布設時の値である。 |
| 施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。 | |
| 基準高については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長500m未満は２箇所測定する。<br>中心線のズレ、ジョイント間隔については適宜測定する。 | ジョイント間隔測定は、原則として呼び径 800㎜ 以上に適用する。 |
| 基準高については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長500m未満は２箇所測定する。<br>中心線のズレ、ジョイント間隔については適宜測定する。 | ジョイント間隔測定は、原則として呼び径 800㎜ 以上に適用する。 |

| 工種 | | 検査内容 | | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|---|
| 8 管水路工事 | 4. 管水路（硬質ポリ塩化ビニル管） | 基準高 | | ±50 |
| | | 埋設深 | | −50 |
| | | 中心線のズレ | | ±120 |
| | | 施工延長 | ただし、延長 200m未満 | −0.1%<br>−200 |
| | 5. 管水路（鋼管） | 基準高 | 被圧地下水のある場合 | ±30<br>±50 |
| | | 中心線のズレ | | ±45 |
| | | 施工延長 | ただし、延長 200m未満 | −0.1%<br>−200 |
| | 6. 管水路（埋設とう性管） | 管種等の適用範囲は原則として下記による。J<br>ＩＳ　G5526（ダクタイル鋳鉄管）<br>ＪＤＰＡ　G1027（農業用水用ダクタイル鋳鉄管）<br>ＪＩＳ　G3443-1（水輸送用塗覆装鋼管－第1部：直管）<br>ＷＳＰ　A-101（農業用プラスチック被覆鋼管）<br>ＪＩＳ　A5350（強化プラスチック複合管）<br>ＦＲＰＭ　K-1111（強化プラスチック複合管フィラメントワインディング成形法） | | |
| | | たわみ率 | 締固めなし | ±5% |
| | | | 締固めⅠ | ±5% |
| | | | 締固めⅠ（礫質土） | ±5% |
| | | | 締固めⅡ | ±5% |
| | 7. シールド工事（一次覆工）コンクリートセグメント、鋼製セグメント | 基準高 | | ±50 |
| | | 中心線のズレ | 直線部<br>曲線部 | ±100<br>±150 |
| | | 施工延長 | ただし、延長 150m未満 | −0.1%<br>−150 |
| | | たわみ率 | | ±5% |
| | 8. シールド工事（二次覆工）（既製管覆工）<br>9. 推進工事 | 基準高 | シールド工事<br>推進工事 | ±30<br>±50 |
| | | 中心線のズレ | | ±100 |
| | | ジョイント間隔 | 別表ア、イ及び別表ウ参照 | |
| | | 施工延長 | ただし、延長 200m未満 | −0.1%<br>−200 |
| | | たわみ率 | | ±5% |

<table>
<tr><th>検　査　の　対　象</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>基準高、埋設深については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。中心線のズレについては適宜測定する。</td><td></td></tr>
<tr><td>基準高については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。中心線のズレについては適宜測定する。</td><td></td></tr>
<tr><td>施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。</td><td>呼び径 900㎜ 以上に適用する。<br>締固め程度は次のとおりである。<table><tr><td>締固めの程度</td><td>仕上がりの程度</td></tr><tr><td>締固めなし</td><td>締まった状態を指しいわゆる膨軟状態ではない</td></tr><tr><td>締固めⅠ</td><td>締固め度の85%以上</td></tr><tr><td>締固めⅡ</td><td>締固め度の90%以上</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>基準高、たわみ率については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。<br>中心線のズレについては適宜測定する。</td><td>た わみ率測 定については、呼び径 900㎜ 以上に適用する。</td></tr>
<tr><td>基準高、たわみ率については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。<br>中心線のズレ、ジョイント間隔については適宜測定する。</td><td>ジョイント間隔測定については、原則として呼び径 800㎜ 以上に適用する。<br>また、たわみ率測定について は 、呼び 径 900㎜ 以上に適用する。</td></tr>
</table>

| 工種 | | 検査内容 | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|
| 9 畑かん施設工事 | 1. スプリンクラー | 埋設深 | ㊀ 50 |
| 10 橋梁工事 | 1. コンクリート桁（ポストテンション桁） | 幅 | 上幅 ㊉ 10 ㊀ 5<br>下幅 ㊍ 5 |
| | | 高さ | ㊉ 10 ㊀ 5 |
| | | 桁長 | ㊍ 15 |
| | | 横方向の最大曲がり | 桁長 10.5m 未満 1.5L－6<br>桁長 10.5m 以上 10 |
| | 2. 鉄筋コンクリート床版工 | 基準高 | ㊍ 20 |
| | | 幅 | ㊍ 30 |
| | | 厚さ | ㊉ 20 ㊀ 10 |
| | 3. 鉄筋コンクリート高欄及び地覆工 | 高欄幅 | ㊀ 20 |
| | | 高欄高さ | ㊀ 30 |
| | | 地覆幅 | ㊀ 20 |
| | | 地覆高さ | ㊀ 20 |
| 11 橋梁下部工事 | 1. 橋台工 | 敷幅 | ㊀ 50 |
| | | 控壁の厚さ | ㊀ 20 |
| | | 高さ | ㊀ 50 |
| | | 中心線のズレ | ㊍ 50 |
| | | 天端長 | ㊀ 50 |
| | | 敷長 | ㊀ 50 |
| | | 胸壁間距離 | ㊍ 30 |
| | | 橋台沓部 | 「1 共通工事の 10. 精度を要するもの」の項に定めるところによる。 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 埋設深については構造図の寸法表示箇所を適宜測定する。 | |
| 幅、高さ、桁長、横方向の最大曲がりについては施工本数 10～15 本につき１本以上測定する。<br>ただし、施工本数 10 本未満は２本測定する。 | |
| 基準高、幅については施工数５径間につき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工数５径間未満は１箇所測定する。<br>厚さについては施工面積おおむね 100 ㎡につき１箇所の割合で測定する。<br>ただし、施工面積 100 ㎡未満は２箇所測定する。 | コンクリート橋に適用する。 |
| 幅、高さについては施工数５径間につき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工数５径間未満は１箇所測定する。 | |
| 敷幅、控壁の厚さ、高さ、天端長、敷長、胸壁間距離については構造図の寸法表示箇所を適宜測定する。<br>中心線のズレについては適宜測定する。 | ２スパン以上の場合の胸壁間距離は２及び３橋脚工の橋脚中心間距離による。 |

| 工　　種 | | 検 査 内 容 | 規　　格　　値<br>(mm) |
|---|---|---|---|
| 11<br>橋梁下部工事 | 2.橋脚工<br>（張出式<br>重力式<br>半重力式） | 基準高 | ㊉㊀ 20 |
| | | 天端長 | ㊀ 50 |
| | | 敷長 | ㊀ 50 |
| | | 天端幅 | ㊀ 20 |
| | | 敷幅 | ㊀ 50 |
| | | 高さ | ㊀ 50 |
| | | 橋脚中心間距離 | ㊉㊀ 30 |
| | | 中心線のズレ | ㊉㊀ 50 |
| | 3.橋脚工<br>（ラーメン式） | 基準高 | ㊉㊀ 20 |
| | | 天端長 | ㊀ 20 |
| | | 天端幅 | ㊀ 20 |
| | | 中間幅 | ㊀ 20 |
| | | 基礎幅 | ㊀ 50 |
| | | 高さ | ㊀ 50 |
| | | 厚さ | ㊀ 20 |
| | | 橋脚中心間距離 | ㊉㊀ 30 |
| | | 中心線のズレ | ㊉㊀ 50 |
| 12<br>法面保護工事 | 1.ラス張<br>植生マット<br>植生シート<br>繊維ネット<br>張芝<br>人工張芝 | 面積 | 施工面積≧設計面積 |
| | | アンカーピン数 | ラス張<br>φ９(D10)×Ｌ＝200mm　1.5本／㎡以上<br>φ16(D16)×Ｌ＝400mm　0.3本／㎡以上 |
| | | アンカーピン及び止め釘 | 植生マット、繊維ネット<br>肥料袋付　６本／㎡以上<br>肥料袋無　３本／㎡以上 |
| | 2.種子吹付 | 面積 | 施工面積≧設計面積 |
| | 3.客土吹付 | 厚さ | 平均厚さ≧設計厚さ<br>ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上 |
| | | 面積 | 施工面積≧設計面積 |
| | 4.植生基材吹付 | 厚さ | 平均厚さ≧設計厚さ<br>測定値は設計厚５㎝未満　㊀ 10%<br>〃　５㎝以上　㊀ 20%<br>ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は設計厚の 50%以上 |
| | | 面積 | 施工面積≧設計面積 |
| | 5.吹付枠 | 梁延長 | 施工延長≧設計延長 |
| | | 梁間隔 | ㊉㊀ L/10 |
| | | 梁断面 | ㊀ 20 |
| | 6.コンクリート吹付<br>モルタル吹付 | 吹付厚さ | 設計厚さ５㎝未満　㊀ 10<br>〃　５㎝以上　㊀ 20<br>ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 基準高、天端長、敷長、天端幅、敷幅、高さ、橋脚中心間距離については施工基数おおむね５基につき１基以上測定する。<br>ただし、施工基数５基未満は１基測定する。<br>中心線のズレについては適宜測定する。 | |
| 基準高、天端長、天端幅、中間幅、基礎幅、高さ、厚さ、橋脚中心間距離については施工基数おおむね５基につき１基以上測定する。<br>ただし、施工基数５基未満は１基測定する。<br>中心線のズレについては適宜測定する。 | |
| アンカーピン数、アンカーピン及び止め釘については施工面積1,000 ㎡につき１箇所の割合で測定する。<br>ただし、施工面積1,000 ㎡未満は２箇所測定する。 | |
| | |
| 厚さについては施工面積2,000 ㎡につき１箇所の割合で測定する。<br>ただし、施工面積2,000 ㎡未満は２箇所測定する。 | |
| 厚さについては施工面積1,000 ㎡につき１箇所の割合で測定する。<br>ただし、施工面積1,000 ㎡未満は２箇所測定する。 | |
| 梁間隔、梁断面については施工面積1,000 ㎡につき１箇所の割合で測定する。<br>ただし、施工面積1,000 ㎡未満は２箇所測定する。 | |
| 厚さについては施工面積おおむね3,000 ㎡につき１箇所の割合で測定する。<br>ただし、施工面積3,000 ㎡未満は２箇所測定する。 | 施工端部、岩等の突出部の特殊な場合は適用しない。 |

| 工種 | | 検査内容 | | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|---|
| 13 暗渠排水工事 | 1.吸水渠 | 布設深 | | ㊀ 75 |
| | | 間隔 | | ㊉ 750 |
| | | 施工延長 | | ㊀ 0.2% |
| | | | ただし、延長500m以下 | ㊀1,000 |
| | 2.集水渠（支線）<br>導水渠（幹線） | 布設深 | | ㊀ 75 |
| | | 施工延長 | | ㊀ 0.2% |
| | | | ただし、延長500m以下 | ㊀1,000 |
| 14 フィルダム工事 | 1.監査廊<br>（暗渠タイプ） | 基準高 | | ㊉ 30 |
| | | 幅 | | ㊀ 25 |
| | | 厚さ | | ㊀ 20 |
| | | 高さ | | ㊀ 40 |
| | | 中心線のズレ | 直線部 | ㊉ 75 |
| | | | 曲線部 | ㊉ 150 |
| | | スパン長 | 直線部 | ㊉ 20 |
| | | | 曲線部 | ㊉ 30 |
| | | 施工延長 | | ㊀ 0.1% |
| | | | ただし、延長150m未満 | ㊀ 150 |
| | 2.堤体盛土 | ゾーン幅 遮水ゾーン | （$\ell_1$） ㊀ 0 | ㊉ 500 |
| | | ゾーン幅 フィルターゾーン | 中心線より （$\ell_2$） ㊀ 0 | ㊉ 500 |
| | | | ゾーン有効幅 | ㊀ 0 |
| | | ゾーン幅 トランシジョンゾーン | （$\ell_3$） ㊀ 500 | ㊉1,000 |
| | | ゾーン幅 ロックゾーン | 中心線より （$\ell_4$） ㊀ 0 | ㊉1,000 |
| | | | ゾーン有効幅 | ㊀ 0 |
| | 3.洪水吐 | 基準高 | | ㊉ 30 |
| | | 幅 | | ㊀ 25 |
| | | 厚さ | | ㊀ 20 |
| | | 高さ | | ㊀ 25 |
| | | 中心線のズレ | 直線部 | ㊉ 50 |
| | | | 曲線部 | ㊉ 100 |
| | | スパン長 | 直線部 | ㊉ 20 |
| | | | 曲線部 | ㊉ 30 |
| | | 施工延長 | | ㊀ 0.1% |
| | | | ただし、延長150m未満 | ㊀ 150 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 布設深、間隔についてはおおむね 10 本につき１本の割合で次により測定する。<br>上、下流端の２箇所、ただし、１本の布設長がおおむね 100m以上のときは、中間点を加えた３箇所。 | |
| 布設深については施工延長おおむね 500mにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500m未満は２箇所測定する。 | |
| 基準高、幅、高さについては施工延長おおむね 100ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。<br>厚さ、中心線のズレについては適宜測定する。 | |
| ゾーン幅については施工延長 50～100ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 50m未満は２箇所測定する。 | |
| 基準高、幅、高さについては施工延長おおむね 100ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 100m未満は２箇所測定する。<br>厚さ、中心線のズレについては適宜測定する。 | |

| 工種 | | 検査内容 | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|
| 15 頭首工工事 | 1.本体 | 基準高 | ㊉ 30 |
| | | 幅 | 天端幅等 ㊀ 30<br>エプロン部 ㊀ 60 |
| | | 厚さ | 導流壁、エプロン部等 ㊀ 30 |
| | | 高さ | 導流壁等 ㊀ 30 |
| | | 長さ | 導流壁、エプロン部等 ㊀ 100 |
| | 2.護床ブロック（異形ブロック） | 基準高 | ㊉ 150 |
| | | 面積 | ㊀ 0.2% |
| 16 海岸河川工事 | 1.捨石工<br>消波ブロック工 | 基準高 | 捨石工は特別仕様書による。 ㊀ 300 |
| | | 幅 | ㊀ 300 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
| --- | --- |
| 基準高、幅、厚さ、高さ、長さについては構造図の寸法表示箇所を適宜測定する。 | |
| 基準高については施工面積 500 ㎡につき１箇所の割合で測定する。<br>ただし、施工面積 500 ㎡未満は２箇所測定する。 | |
| 基準高、幅については施工延長 500～600ｍにつき１箇所以上測定する。<br>ただし、施工延長 500ｍ未満は２箇所測定する。 | |

| 工種 | | 検査内容 | 規格値 (mm) |
|---|---|---|---|
| 17 ため池改修工事 | 1.堤体工 | 基準高 | ㊉ 100 |
| | | 堤幅 | ㊀ 100 |
| | | 法長 | ㊀ 100 |
| | | 施工延長 | ㊀ 200 |
| | 2.洪水吐工 | 基準高 | ㊉ 30 |
| | | 幅 | ㊉ 30 |
| | | 厚さ | ㊉ 20 |
| | | 高さ | ㊉ 30 |
| | | 中心線のズレ | 直線部 ㊉ 50<br>曲線部 ㊉ 100 |
| | | スパン長 | 直線部 ㊉ 20<br>曲線部 ㊉ 30 |
| | | 施工延長 | ㊀ 150 |
| | 3.樋管工 | 基準高 | ㊉ 30 |
| | | 幅 | ㊀ 20 |
| | | 厚さ | ㊀ 20 |
| | | 高さ | ㊀ 20 |
| | | 中心線のズレ | 直線部 ㊉ 50<br>曲線部 ㊉ 100 |
| | | 施工延長 | ㊀ 150 |

| 検　査　の　対　象 | 摘　　要 |
|---|---|
| 線的なものについては施工延長おおむね 20mにつき１箇所の割合で測定する。<br>上記未満は２箇所測定する。 | 1. 鋼土の幅は盛土高１ｍ毎に管理する。<br>2. 測定は原則として、水平距離とするが、法長の場合は斜距離とする。<br>3. 出来形測定と写真は同一箇所で行う。<br>4. 出来形図は横断図面を利用して作成する。 |
| 基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレについては１スパンにつき１箇所の割合で測定する。<br>箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。 | 1. スパン長の標準を９ｍとした場合。 |
| 基準高、幅、厚さ、高さ、中心線のズレについては施工延長おおむね 10ｍにつき１箇所の割合で測定する。<br>上記未満は２箇所測定する。<br>ジョイント間隔については、１本毎に測定する。<br>箇所単位のものについては適宜構造図の寸法表示箇所を測定する。 | 1. 基準高(Ｖ)は管底を原則とする。<br>2. プレキャストコンクリート製品使用の場合である。<br>3. 底樋がトンネルの場合は、土木工事施工管理基準 5 水路トンネル工事の水路トンネルに準ずる。<br>4. 斜樋等付帯構造物は土木工事施工管理基準 1 共通工事のコンクリート付帯構造物に準ずる。ただし、基準高(Ｖ)は、取水孔（ゲート中心）の標高とし、高さ(Ｈ)は斜面直角方向とする。 |

別表ア　管水路（遠心力鉄筋コンクリート管）のジョイント間隔規格値

（単位：㎜）

| 呼び径 (㎜) | 規格値 | | |
|---|---|---|---|
| | JIS A 5372 RC管（B形管） | | JIS A 5372 RC管（NB形管） |
| | 良質地盤 | 軟弱地盤 | |
| 150 | ＋20　0 | ＋11　0 | ＋23　0 |
| 200 | ＋20　0 | ＋11　0 | ＋23　0 |
| 250 | ＋20　0 | ＋11　0 | ＋23　0 |
| 300 | ＋18　0 | ＋10　0 | ＋23　0 |
| 350 | ＋18　0 | ＋10　0 | ＋23　0 |
| 400 | ＋21　0 | ＋11　0 | ＋29　0 |
| 450 | ＋21　0 | ＋11　0 | ＋29　0 |
| 500 | ＋21　0 | ＋11　0 | ＋29　0 |
| 600 | ＋23　0 | ＋13　0 | ＋29　0 |
| 700 | ＋21　0 | ＋12　0 | ＋29　0 |
| 800 | ＋24　0 | ＋13　0 | ＋29　0 |
| 900 | ＋26　0 | ＋15　0 | ＋29　0 |
| 1,000 | ＋32　0 | ＋18　0 | |
| 1,100 | ＋33　0 | ＋19　0 | |
| 1,200 | ＋35　0 | ＋21　0 | |
| 1,350 | ＋37　0 | ＋22　0 | |

（単位：㎜）

| JIS A 5372　RC管（NC形管） | | | |
|---|---|---|---|
| 呼び径(㎜) | 標準値 | 規格値 | |
| 1,500 | 5 | ＋33 | ＋5 |
| 1,650 | 5 | ＋33 | ＋5 |
| 1,800 | 5 | ＋33 | ＋5 |
| 2,000 | 5 | ＋33 | ＋5 |
| 2,200 | 5 | ＋33 | ＋5 |
| 2,400 | 5 | ＋38 | ＋5 |
| 2,600 | 5 | ＋38 | ＋5 |
| 2,800 | 5 | ＋38 | ＋5 |
| 3,000 | 5 | ＋38 | ＋5 |

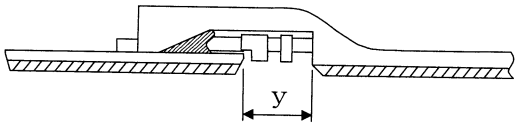
注)1. 規格値は埋戻後の値であり、原則として４箇所のうち１箇所でもこの値を超えてはならない。
2. 埋戻後の測定は、原則として呼び径800㎜以上に適用する。
3. 標準値は継手構造上、本来開くべきジョイント間隔値を示しており、規格値は標準値に対する値を示している。

別表イ　管水路（ダクタイル鋳鉄管）のジョイント間隔規格値

（単位：mm）

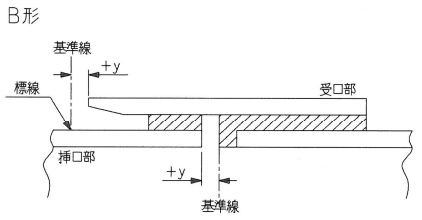
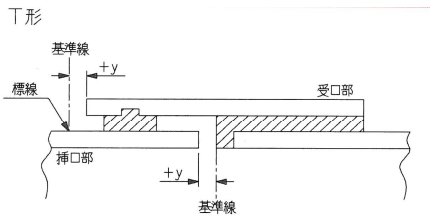
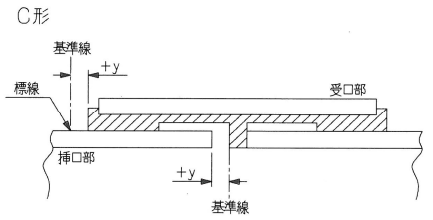
| 規　格 | JIS G 5526･5527及び JDPA G 1027 | JIS G 5526・5527及び JDPA G 1027･1029 | | JIS G 5526・5527及びJDPA G 1029 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 呼び径 (mm) | K　形 | T　形 | T形（異形管） | U　形 | |
| | 規　格　値 | 規　格　値 | 規　格　値 | 標準値 | 規　格　値 |
| 75 | ＋19　0 | ＋16　0 | ＋16　0 | － | － |
| 100 | ＋19　0 | ＋16　0 | ＋17　0 | － | － |
| 150 | ＋19　0 | ＋16　0 | ＋18　0 | － | － |
| 200 | ＋19　0 | ＋14　0 | ＋16　0 | － | － |
| 250 | ＋19　0 | ＋14　0 | ＋14　0 | － | － |
| 300 | ＋19　0 | ＋24　0 | － | － | － |
| 350 | ＋31　0 | ＋24　0 | － | － | － |
| 400 | ＋31　0 | ＋24　0 | － | － | － |
| 450 | ＋31　0 | ＋24　0 | － | － | － |
| 500 | ＋31　0 | ＋30　0 | － | － | － |
| 600 | ＋31　0 | ＋30　0 | － | － | － |
| 700 | ＋31　0 | ＋30　0 | － | 105 | ＋32　－5 |
| 800 | ＋31　0 | ＋30　0 | － | 105 | ＋32　－5 |
| 900 | ＋31　0 | ＋40　0 | － | 105 | ＋32　－5 |
| 1,000 | ＋36　0 | ＋40　0 | － | 105 | ＋33　－5 |
| 1,100 | ＋36　0 | ＋40　0 | － | 105 | ＋33　－5 |
| 1,200 | ＋36　0 | ＋50　0 | － | 105 | ＋33　－5 |
| 1,350 | ＋36　0 | ＋50　0 | － | 105 | ＋35　－5 |
| 1,500 | ＋36　0 | ＋60　0 | － | 105 | ＋35　－5 |
| 1,600 | ＋40　0 | ＋70　0 | － | 115 | ＋33　－5 |
| 1,650 | ＋45　0 | ＋70　0 | － | 115 | ＋33　－5 |
| 1,800 | ＋45　0 | ＋80　0 | － | 115 | ＋33　－5 |
| 2,000 | ＋50　0 | ＋90　0 | － | 115 | ＋36　－5 |
| 2,100 | ＋55　0 | － | － | 115 | ＋36　－5 |
| 2,200 | ＋55　0 | － | － | 115 | ＋36　－5 |
| 2,400 | ＋60　0 | － | － | 115 | ＋36　－5 |
| 2,600 | ＋70　0 | － | － | 130 | ＋36　－5 |

注）1. 規格値は埋戻後の値であり、原則として４箇所のうち１箇所でもこの値を超えてはならない。
2. 埋戻後の測定は、原則として呼び径 800 mm以上に適用する。
3. U形管の標準値は、下図の寸法ｙである。



別表ウ　管水路（強化プラスチック複合管）ジョイント間隔規格値

（単位：mm）

| 規　格 | ＪＩＳ　Ａ 5350 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | Ｂ形、Ｃ　形　及びＴ形 | | | | |
| 呼び径(mm) | 標準値 | 規　　格　　値 | | | |
| | | 良質地盤 | | 軟弱地盤 | |
| 200 | 0 | ＋ 33 | 0 | ＋22 | 0 |
| 250 | 0 | ＋ 33 | 0 | ＋22 | 0 |
| 300 | 0 | ＋ 38 | 0 | ＋25 | 0 |
| 350 | 0 | ＋ 38 | 0 | ＋25 | 0 |
| 400 | 0 | ＋ 43 | 0 | ＋28 | 0 |
| 450 | 0 | ＋ 43 | 0 | ＋28 | 0 |
| 500 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 600 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 700 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 800 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 900 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 1,000 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 1,100 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 1,200 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 1,350 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 1,500 | 0 | ＋ 53 | 0 | ＋35 | 0 |
| 1,650 | 0 | ＋ 80 | 0 | ＋53 | 0 |
| 1,800 | 0 | ＋ 80 | 0 | ＋53 | 0 |
| 2,000 | 0 | ＋ 95 | 0 | ＋63 | 0 |
| 2,200 | 0 | ＋ 95 | 0 | ＋63 | 0 |
| 2,400 | 0 | ＋113 | 0 | ＋75 | 0 |
| 2,600 | 0 | ＋113 | 0 | ＋75 | 0 |
| 2,800 | 0 | ＋128 | 0 | ＋85 | 0 |
| 3,000 | 0 | ＋128 | 0 | ＋85 | 0 |

注）1. 規格値は埋戻後の値であり、原則として４箇所のうち１箇所でもこの値を超えてはならない。
2. 埋戻後の測定は、原則として呼び径 800 mm以上に適用する。